

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成 27 年 1 月 22 日 (2015.1.22)

【公開番号】特開 2013-114464 (P2013-114464A)
 【公開日】平成 25 年 6 月 10 日 (2013.6.10)
 【年通号数】公開・登録公報 2013-029
 【出願番号】特願 2011-260228 (P2011-260228)
 【国際特許分類】

G 0 6 F 17/50 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 17/50 6 0 4 A

G 0 6 F 17/50 6 1 2 G

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 11 月 27 日 (2014.11.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

形状データ取得部 1 0 0 は、リブを設計する物品の形状を示す 3 次元形状データを取得する。3 次元形状データの取得の方法は様々にありうる。例えば、C D - R O M 等の記録媒体からの入力を受け付ける。

シェル情報取得部 1 1 0 は、リブを設計する物品の形状の少なくとも一部を含み物品の形状の変形が許容される空間である設計空間内において、リブを設ける前記物品の略面形状部分に対して設定される面状のシェルモデル (2 . 5 次元情報) を取得する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 5】

(処理フロー)

図 4 は、図 3 に示されるリブ設計装置 1 が実行するリブ設計処理手順の一例を示すフローチャートである。

リブ設計装置 1 のユーザは、リブを生成する前の物品の 3 次元形状データが記録されている C D - R O M 等の記録媒体をリブ設計装置 1 に読み込ませる。形状データ取得部 1 0 0 は、この物品の 3 次元形状データの入力を受け付けることで、3 次元形状データを取得する (ステップ S 1 0 1)。形状データ取得部 1 0 0 が入力を受け付けた 3 次元形状データは、一旦、R A M やハードディスク等の記憶装置に記憶された後、リブ設計装置 1 のディスプレイ等の表示装置に表示出力される。これにより、ユーザは物品の 3 次元形状を視認できる。なお、3 次元形状データは、例えば、リブ設計装置 1 が接続されているネットワークを介して、他の装置から受信する等となってもよい。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 3 5 】

プリンタインタフェイス 2 0 8 には、レーザビームプリンタやインクジェットプリンタなどのプリンタが接続される。

ネットワークインタフェイス 2 0 9 は、コンピュータ装置であるリブ設計装置 1 を外部のネットワークへ接続するためのインタフェイスである。例えば、リブ設計装置 1 は、ネットワークインタフェイス 2 0 9 を介して、物品の 3 次元形状データを受信してハードディスクドライブ 2 0 6 等に記憶するようになっていてもよい。また、ネットワークインタフェイス 2 0 9 を介して、リブ設計処理の処理結果である最適化形状のデータを外部の装置等へ出力するようになっていてもよい。